【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式１（小・中）

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立西川副小学校
1　前年度 評価結果の概要	・いじめ防止と人権教育については、重点項目として次年度も継続的に取組み、不登校0を目指す。 ・学力の向上へ向けて、授業の改善、基礎学力の向上、家庭との連携を柱に継続して取組む。 ・川副町を愛し、佐賀を誇りに思う児童の育成を目指して、地域との連携・交流を深めながら取組む。 ・防災教育を通して自助・公助の精神を高め、児童の防災への対応力を育む。
2　学校教育目標	「よく学び、助け合う、元気な子の育成　～かしこく、やさしく、たくましく～」
3　本年度の重点目標	・基礎的基本的な学力の向上に取組む。 ・主体的で対話的な学習指導の改善に取り組み、特に「聞く・話す・書く」を中心とした授業づくりに取り組む。 ・人権・同和教育に継続して取り組み、優しく豊かな心情を育む。

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価：**A**　　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

評価項目	重点取組：取組内容	重点取組：成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価：進捗度（評価）	中間評価：進捗状況と見通し	最終評価：達成度（評価）	最終評価：実施結果	学校関係者評価：評価	学校関係者評価：意見や提言	主な担当者
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・児童の学習実態に応じた学力向上プランをまなび部で計画し、共通理解を図りながら職員一丸でとなって取組む。 ・校内研究での授業づくり、講師を招聘しての指導法の改善に取組む。	B	・夏休中に講師の先生による学習状況調査の分析と手だての研修を行い、今度の取り組みを決定することができた。今後も研修会を開き必要な手立てについて共通理解を深めていく予定である。 ・1学期には、全校研究を実施し、講師の先生より指導いただいた。今後も引き続き、授業改善に取り組む。	B	・校内研や職員研修等を通して、各グループ、各学年での授業改善を計ったり、家庭学習の内容を見直したり、共通理解を深めたりすることができた。 ・ただ、学力差に応じた指導については、まだまだ不十分で、授業改善や家庭学習の内容などを今後考えていく必要がある。	B	・学習状況調査により、今後の取り組みを決定されたようで、今後、共通理解を密にし、生徒への指導をお願いします。 ・家庭での学習協力が必要だと思います。 ・調査結果をもとに学力向上へ向けた計画が実践されている。 ・学習状況の分析と研修は重要なことだと思います。また、学力向上の一手段として漢字検定を取り入れる、学校独自の基準で級を与える（なわとび検定のようなもの）、上の級を目指すやる気につながればと、漢字に限らず、英単語、算数でもよいと思います。 ・小学校は学年毎の交流が先生も多いと思います。低学年から中学年、そして高学年と縦のつながりも今まで通り密にお願いします。	【まなび部】 ・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○（学校独自重点取組・任意） 主体的で対話的な学習活動を中心とした、授業づくりの共通実践	○（学校独自成果指標・任意） ・「話し合う学習活動を通して、自分の考えが広がったり深まった」とを実感した児童80%以上 ・国語と算数においてCRT（1～3年）全国平均以上、県全国テスト平均以上が全体の8	・児童アンケートを実施し、授業評価に取り入れる。 ・校内研究において授業づくりを中心とした指導法の改善に取組む。	B	・今後も、児童アンケートを実施し、授業評価に取り入れていく。 ・1学期には、全体研を実施し、講師の先生よりご指導いただいた。今後も、お互いに研究授業を見合い、指導法の改善に努める。	C	・12月に実施した児童アンケートでは「友達と話し合いながら学習することは大切ですか」という質問において、92%を達成した。 ・1月にも講師を招き、教職員全員で研修を受け、指導法の改善に努めた。 ・1年～3年生CRT検査結果では算数国語共に得点率が全国比80%を超えたが、全国平均を超えた教科が1つもなく、基礎学力が十分に定着していない結果であった。	B	・昨年度の進捗度（評価）ではCであり、「書く」ことに力を入れる必要ありとあったが、今年度は講師の先生の指導があったようで、改善の方向に向かっていることを期待している。 ・子供たちが何のために学ぶのかを考えて対話学習ができればもっとよいと思います。 ・児童を主体とした対話的な学習活動がよく実践されているが、まだ改善の余地があると思われる。 ・児童にとって楽しい授業となるよう引き続きアンケートの実施をお願いします。 ・学校と家庭での学習のあり方も今後重要な気がします。家庭にもよりますが、保護者が学習は学校依存傾向のようです。家庭での学習習慣が必要。	【まなび部】 ・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○1学期と2学期に実施する人権や心のアンケートにおいて肯定的な回答をした児童85%以上。	・人権に関わる児童アンケートの実施（6月、11月）。 ・人権・同和教育に関する集会活動や授業実施、道徳科の授業全クラス実施。 ・保護者や地域と連携した体験学習の実施。	A	・アンケートを6月に実施し、各学級で実態の把握を行うことができた。 ・全学級で、LGBTについての授業実践を行った。また、人権集会では、特別支援学級（みどり学級）の取り組みを紹介し、児童理解を図った。	A	・アンケートを11月に実施し、各学級及び学年での実態の把握を行った。その結果、肯定的な回答をした児童は、89%となり、安心した学校生活を送っている児童がほとんどであると捉えることができる。また、この結果を基に、自己肯定感が低かった児童を個別に記録を残し、次年度への引き継ぎ事項に加えることとした。 ・人権集会を計画的に行うことができた。部落問題学習については、全学年で行った。また、拉致問題や難病に関する学習については高学年で実施した。それぞれの学習の後には、感想を書き、人権コーナーに掲示した。	A	・少しづつコロナも落ち着きはじめ、体験学習も出来るようになってきたのではないでしょうか。各学級の実態把握と、特別支援学級の児童への理解を図られた事は良かったと思うので、今後は子ども達の理解度を観察する必要がある。 ・家庭でもっと子供の話を聞いたりいろいろなことを話す時間を増やし子供たちの豊かな心を育てて欲しいと思います。 ・概ね良好だと思われるが、いじめ事案が発生しているので、いじめの発生防止に向け努力が必要だと思われる。 ・LGBTの授業は各学年での理解できる内容でしょうか。全学年統一の内容では難しい部分があるのではと思いました。 ・保護者に対するアンケート調査や子ども達のアンケート結果を保護者にも共有してほしい。	【こころ部】
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ防止に向けた組織的な取組ができている」と回答した職員85%以上。 ○「不登校児童、不登校気味の児童に対して組織的な取組ができている」と回答した職員85%以上。	・いじめの認知・対応に関するマニュアルの見直しと研修の実施。 ・いじめに至る前の早期発見へ向けた「月ごとのアンケート」や情報交換会の毎月の実施。 ・担任と教育相談、管理職の連携を図り開発的な生徒指導に取組み、スクールカウンセラー等の積極的な活用。	A	・いじめに関するスクールカウンセラーによる校内研修は、12月に実施予定。 ・「今月のわたし」のアンケートを毎月実施し、児童の実態把握に努めた。 ・関係職員による情報交換を常に行い、スクールカウンセラーにつないでいる。さらに、医療機関での診断を行うことができた。	A	・いじめ防止に向けた取り組みは、全ての職員が取り組みができたと回答した。 ・12月には、スクールカウンセラーによる校内研修を行い、児童の問題行動につながる要因、発達に関する問題点、ヤングケアラーの問題など、多岐にわたる課題について対応例などを聞くことができた。 ・「今月のわたし」を継続し、毎月保管している。気になる児童がいた場合、さかのぼって情報を得る手立ての一つとして活用することができた。	A	・関係職員の情報交換を常に行われ、医療機関等へのつなぎが行われているようで、今後も継続される事と、早期発見及び対応に期待しています。 ・日頃、学校でのいじめ事案に早期対応されていて子供たちに目の行き届いたご指導をされていることがわかります。ありがとうございます。 ・事案の発生後、迅速かつ適切な対応がされている。 ・いろいろな問題が発生する中、対策も大変だと思います。「いじめ」は早く気付くことが大切ですが、毎月のアンケートは回答がマンネリ化しないか。いつも先生と話せる関係を作ることもお願いします。 ・学校内に限らず、家庭や地域の情報自治会長、PTA、民生委員等学校外の情報も必要ではないでしょうか。	【こころ部】
	◎児童が夢をもち、郷土愛を育む教育活動	○「将来について夢をもっている」と回答した児童が80%以上。 ○「自分が住む川副町が好き」と回答した児童が80%以上。	・地域や保護者と連携した学年学校行事の実施。 ・生活科や総合的な学習においての探究的な学習の取組。	A	・コロナ禍のため、活動が制限されることが多かったが、感染症対策を行い、その中でできることを考慮し実践した。	B	・「将来について夢を持っている」と回答した児童は、76%であった。コロナ禍のため、情報が限られ、キャリア教育などを十分に行えないことが要因の一つではないかと考える。 ・学年行事である「親子ふれあい活動」をほとんどの学年で実地することができなかった。地域との交流活動では、花壇の花植えや稲刈りは行った。しかし、実施の方向で話し合いを行ったが、活動が制限され開催できなかった活動も多い。来年度は実施できるよう引き継ぎを行う必要がある。	A	・コロナ禍の中、学校行事は縮小され、保護者や地域の方の参加が思うようにいかなったと思うが、まちづくり協議会・自治会・老人クラブ・公民館との連携は出来ていたように思う。 ・地域の方保護者の方がよく協力されていると思います。これからも川副町の面白いところや新しい発見などでもっと好きになってほしいと思います。 ・行事・総合的な学習（自由研究）など、郷土愛を育む今日聞く活動がよく実践されている。 ・活動が制限されれので代わりにポスターや標語を作成し、校内に掲示するのも良いかと思います。・地域等での行事への参加を積極的に親子でお願いしたい。（交流）	【こころ部】
●健康・体つくり	●安全に関する資質・能力の育成 ●望ましい生活習慣の形成	●児童の交通事故を0（ゼロ）にする。 ○「交通安全に気を付けている。」と回答した児童が85%以上。 ●規則正しい生活習慣「早寝早起」の啓発・推進をする。 ○「早寝早起ができている」と回答した児童が85%以上。	・5月に交通安全教室を実施する。 ・全校朝会、学年朝会、集会活動などの場で、必要に応じて交通安全に関する啓発を行う。 ・下校時の職員による見回りの実施（月に1回程度） ・家庭学習がんばろう週間での啓発をする。 ・保健便りや生活のきまり、全校・学年集会等での啓発に取組む。	A	・交通安全教室を実施し，安全な自転車運転の仕方や横断歩道の渡り方等を学習し，交通事故は0を保っている。 ・交通安全に関して危惧するような情報が入ったら，朝会や集会等で適宜指導をしている。 ・6，7月に重点期間として，職員による下校時の見回りを集中して行った。 ・早寝早起き，家庭学習頑張ろう週間の点検項目の一つに挙げて実施。集会等でも，折を見て児童に啓発している。	B	・年間を通して交通事故0を達成することができた。 ・下校時の職員の見回りを実施し、交通マナーの向上への取り組みを実施したが、まだまだ改善できていないようである。今後も引き続き、児童への声掛け、保護者も含めた啓発が必要である。 ・早寝・早起き・朝ご飯については、80%の児童ができていると児童アンケートで回答している。継続的な指導と家庭への啓発を今後も続ける必要がある。	A	・下校時の見回りや、危惧する情報には適宜指導が行われている事。また、家庭学習に関しても、児童への啓発が行われている様子が伺えた。今後継続してほしい。 ※地域での自転車の乗り方等についても指導の継続をお願いしたい。 ・夜遅くまでテレビを見たりゲームをしたりして寝不足の子ども達がいるようなので、学校で早寝早起きの啓発をしていただけると助かります。 ・交通事故は発生していないので評価できる。自転車の運転や横断歩道の渡り方等について、一部の児童に問題が見られるので指導が必要である。 ・指導見回りありがとうございます。見回りは先生方だけでなく保護者にも協力頂いてはいかがでしょうか。 ・登校時はきちんと安心安全に行列できています。しかし、下校時がバラバラです。道に広がったり他の道を下校している姿を見かけます。	【からだ部】
	○防災に対する児童の意識の向上と対応能力の育成	○災害時等で自分の命を守る行動や判断ができるようにする。 ・「災害時に命を守る行動や判断ができる」と回答した児童85%以上。	・生活科や理科、社会等において横断的にカリキュラムを計画し防災教育を実施。 ・年3回の避難訓練等の実施や津波高波発生時の垂直方向への地域と連携した避難訓練の実施。	B	・4、5、6年生は、理科や社会で防災に関わる内容の学習に取り組んでいる。また、他の学年も、道徳で命の大切さについての学習に取り組んでいる。 ・1学期に風水害避難訓練を実施した。一斉下校では，職員が児童に帯同し，危険個所の点検を行った。	A	・教科の学習の中で、防災減災につながる取り組みについて職員に対して十分に、啓発ができなかった。次年度への課題となった。 ・今年度から、高波・高潮・津波対策として、垂直方向の避難訓練が実施できたことは、防災・減災へ向け意義があった。避難訓練については消防署からの助言を参考に内容の見直しを図り、より実践的になるよう工夫する必要がある。 ・児童アンケートから、災害が起きた時に命を守る行動をとることができると回答した児童が、96%であった。児童の防災に対する意識は高まっていると言える。	A	・防災に対する意識を深めることは、児童ばかりでなく家庭でも意識向上に努めてほしい。 ・いろいろな災害を知り学び備えることは大切だと思います。子ども達にとって地域と連携した避難訓練は大きな経験になると思います。 ・避難訓練等の防災教育はよく実践されている。 ・避難訓練、一斉下校、可能であれば訓練の機会がもう少し増え、いざという時にスムーズに行動できるように思います。 ・学校での防災は定期的に実施されていますが、地域での防災（自治会等）への参加はいかがでしょう。	【からだ部】
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・2ヶ月で時間外勤務時間が90時間を超えない職員90%以上。 ・1週間の退勤時間の設定。 ・月1回の職員会議での長時間勤務是正への連絡会。	B	・2か月で90時間を超えない職員については、8名おり、全職員の36パーセントを占めている。しかし、超過勤務の平均時間では、昨年度と比較し縮減の傾向となっている。目標達成へ向けて改善に取り組んでいく。 ・職員会議において、超過勤務時間についての月ごとのデータ、2か月合計のデータ、昨年度比、平均時間を提示して、改善への手立てとしている。	B	・2か月で超過勤務時間を90時間超えた職員数が全体平均の26%おり、目標を達成することができなかった。しかし、職員アンケートからは、超過勤務削減向けての学校としての取り組みについては、肯定的な評価100%を得られた。 ・退勤時間の設定については十分に周知ができた。 ・職員会議では、月ごとの個人の超過勤務時間、2か月を合算した超過勤務の時間、月ごとの超過勤務時間合計などを提示し、職員が自分自身の働き方について見直すことができように資料を提示し、超過勤務の是正とワークバランスについて啓発を行った。	B	・働き方改革はあっても、実際は思うようにならないのが現実だと思うが、目標達成への改善取り組んでほしいと思う。 ・超過勤務の削減については、今後も改善に向けての取組が必要。 ・先生方の勤務実態と教育委員会規則があることを保護者へ周知し、登校及び下校完了時刻の厳守などの協力頂き少しでも解消につながってほしと思います。 ・小学校の先生の超過勤務はハードなように聞いています。長期休暇や平時の空いた時間の休憩（早めの帰宅）が必要です。	・管理職
	○業務の効率化を図るためのデータベース化	○分掌事務等のデータベース化。目標達成90%以上 ○校務分掌の引継ぎをスムーズにするための工夫	・データ整理の決まりを設け、過去のデータの整理。 ・引継ぎマニュアルを文書で作成する。	B	・データの整理については、50%程度進んでいるが、教職員へ計画的に取り組むよう指導する。 ・引継ぎマニュアルについては、2学期の後半から取り組む。	B	・データの管理については、職員アンケートによって、データベース化、紙媒体による引継ぎが進んでいると回答した職員が80%おり、順調に進んでいる。	B	・昨年は個々のデーターベース化の差があったようだが今年度は、50%の進み具合になり少しづつだが進んでいるように思うので、今後の進み具合により指導頂きたい。 ・データベース化90%以上という目標に向けての今後の取組も必要。 ・引き続き取組をお願いします。 ・データベースやパソコン等、ハード、ソフトの面での有効活用実施提案します。	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組：取組内容	重点取組：成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価：進捗度（評価）	中間評価：進捗状況と見通し	最終評価：達成度（評価）	最終評価：実施結果	学校関係者評価：評価	学校関係者評価：意見や提言	主な担当者
○特別支援教育の充実	○職員の特別支援教育に関する理解と意識の向上	○「特別支援教育の考え方に基づいた学級づくりや授業づくりができた」と回答した職員90%以上。	・月1回の生・特・教会議の実施及び児童への共通理解の促進。 ・特別支援教育に関する研修会の実施。 ・ケース会議の充実、情報の共有。	B	・月1回の生・特・教会議において児童情報の共通理解が図れるようになった。 ・特別支援に関する研修会を開催、職員が悩んでいる特別な配慮を要する児童対応について講師を招いて専門性を高めることができた。 ・ケース会議は適格に対応できていないが、管理職と職員による情報の共有は図ることができている。	B	・職員連絡会などを通して、児童の情報の共有理解を図ることはできた。しかし、対応や対策までは十分な理解が図れなかった。 ・専門性の高い講師を招聘し、2回の研修会を実施することができた。職員のニーズに応えられる研修会を今後も企画していく。 ・ケース会を積極的に開催することができなかった。次年度への反省である。	B	・職員間の情報共有は必要不可欠だと思う。また、、専門講師の指導助言を聴き、今後も先生方の自己研鑽をして頂きたい。 ・ケース会議の充実等、職員間の確実な情報共有に向けての取組、検討が必要である。 ・関係者間の情報共有「報」「連」「相」は重要だと思います。今後も継続してほしい。 ・どうしても偏りがち（特別支援関係者）ですので、定期的に多くの先生を支えての会議や研修をお願いします。	【こころ部】 ・特別支援Co ・教育相談担当 ・生徒指導担当

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・学力向上へ向け取組んできた。国・県学習状況テストの結果を見ると平均には達していないが、経年比較を観点別にみると、5・6年は向上が図れている。1～3年に関しては、CRTテストを実施、算数国語では全国平均を下回る結果であった。改善へ向け、全職員重点的に取り組む必要がある。 ・心の教育では、生徒指導上の大きなトラブルは減り、落ち着いた生活ができている。しかし、いじめ対策として、今までの取り組みを見直し、改善を図る必要がある。 ・防災・減災への取り組みについては、訓練内容の見直しを図りながら、さらなる向上を図る。下校時の交通マナーの向上について、部を中心にしながら改善に努める。 ・夢があり、地域を愛する児童の育成を目指して、職員と意識を共有し、地域との連携を図りながら今後も積極的に取り組んでいく。